

八王子市における工業団地の機能と特質

－ 八王子繊維工業団地の事例研究 －

中央大学国際経営学部 王 玲玲

2020年11月7日

構成

- 1.研究目的
- 2.工業団地の経済的利益
- 3.八王子繊維工業団地の造成
- 4.八王子繊維工業団地の経済的利益に関する考察
- 5.八王子繊維工業団地の機能と特質
- 6.まとめ

1.研究目的

- 本研究では、八王子繊維工業団地（以下：繊維工業団地）の造成背景、造成プロセス等を整理して、事例研究を行う。
- 本研究の目的は工業団地の経済的利益という観点から繊維工業団地の機能と特質を考察することである。

2.工業団地の経済的利益

- 日本の工業団地の特徴
- 工業団地の経済的利益

日本の工業団地の特徴

百瀬恵夫（1978-1）^{（注1）}による工業団地政策の分類

- 地域開発を目的とするもの
- 工業化を目的とするもの
- 中小企業の高度化を目的とするもの ← 日本の工業団地の特徴

注1：百瀬恵夫（1978-1）「工業団地の類型的研究」『中小企業季報』大阪経済大学中小企業経営研究所

百瀬恵夫（1978-2）^{（注2）}による工業団地の経済的利益について

規模の経済性	同業種の中小企業を集団化＋参加企業による共同化・協業化によって規模の経済性を追求 生産規模の拡大→コストの低減、生産性の向上
外部経済の利益	企業集団内部と地域社会との協力関係によって得られる。 経営者や労働者の技術・経験知識の交流、相互啓発、市場の拡大などある。 日本の場合、集団構造のなかに外部経済を求められない。
投資の経済性	入居企業が用地、建物、施設などを経済的入手できる。

注2：百瀬恵夫（1978-2）「工業団地の経済的特性」『政経論叢』明治大学政治経済研究所

3.八王子繊維工業団地の造成

- 八王子繊維工業団地造成の背景
- 八王子繊維工業団地の造成
- 入居企業
- 入居企業の操業活動など

繊維工業団地構想の背景

八王子市

- ・ 大都市構想推進
(隣接町村の合併、市街地の整備、住宅地域、商業地域、準工業地域の指定)
- ・ 大企業誘致運動
(周辺農村地帯に工業団地を造成)

- ・ 工場公害防止条例 (東京都)
- ・ 騒音規制法

八王子の織物

- ・ 小規模の工場が市内に無秩序に散在
- ・ 労働力不足 (熟練工と新規職人)
- ・ 大企業との競争に勝てない
- ・ 騒音問題



市内の織物工場が
再編整備される



市街地では織れなくなる

- ・ 織物工場から出る騒音
- ・ 染色工場から出る廃水

繊維工業団地構想の背景

市内の織物工場が
再編整備される

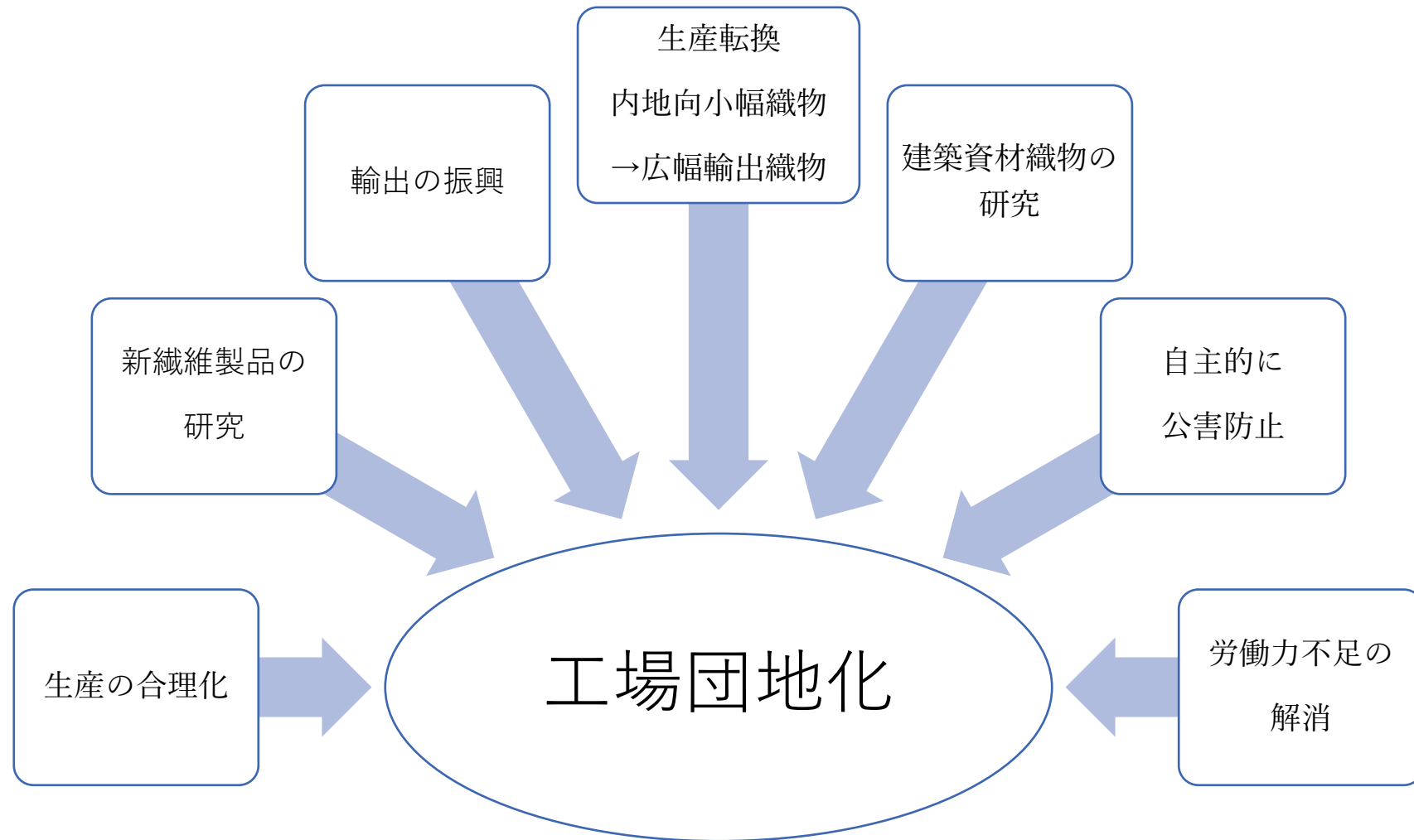
市街地では織れなくなる
・ 織物工場から出る騒音
・ 染色工場から出る廃水



対策

- ①生産形態の変革
(全面外注か下請に依存)
- ②移転 (工場集団化)

繊維工業団地の構想



繊維工業団地の造成

- モデルケース：足利トリコット工業団地
- 主体：八王子繊維工業団地協同組合
- 協力機関・団体：東京都、八王子市、
公害防止事業団（現環境再生保全機構）、
中小企業振興事業団
- 建設予定：織物工場、倉庫、組合事務所、託児所、寄宿舍、
共同事業施設（染色、整経、糊付）

繊維工業団地の造成

- 1962年4月 工場集団化構想を提唱（菅沼政蔵ら）
- 5月 繊維工業団地造成について八王子市などに陳情
- 7月 八王子市議会産業委員会で採択
- 8月 造成説明会開催、113名申込
- 10月 八王子繊維工業団地促進会を結成
- 1964年12月 繊維工業団地協同組合設立の創立総会開催
- 1965年3月 八王子繊維工業協同組合の設立登録
- 1966年3月 八王子繊維工業団地協同組合と名称変更

繊維工業団地の造成

- 1969年2月 団地造成工事（公害防止事業団）着工
- 1969年7月 用地造成竣工
- 1969年10月 第一期工事（15社）建築着工
- 1970年3月 第一期工事竣工
- 1971年1月 第二期工事（5社）建築工事着工
- 1971年3月 第二期工事竣工
- 1971年7月 落成式挙行
- 1972年1月 組合事務所建築工事着工
- 1972年5月 組合事務所竣工

八王子繊維工業団地の概要

- 所在地：八王子市下恩方町
- 団地面積：51,606m²（15,638坪）
- 参加企業：20社（団地完成時）

- 複数の工場の立地を想定して、計画的に用地の購入・造成・整備を行い、分譲される工場用地
- 中小企業団地型

- 建物：織物工場、組合事務所（共同事業施設は見送り）

入居企業20社-1（1975年）

	会社名	本社	繊維工業団地	事業内容
1	橋完織物株式会社	八王子市大和田町	工場	ネクタイ
2	内田長織物有限会社	八王子市八木町	工場	ネクタイ
3	東商事有限会社	八王子市元横山町	工場	
4	菅沼織物株式会社	八王子市元横山町	工場	
5	みや古織株式会社	八王子市大和田町	工場	
6	個人（代表者：小西英二）	八王子市中野上町	工場	
7	有限会社青喜	八王子市下恩方町	本社・工場	
8	池田織物有限会社	八王子市元横山町	工場	ネクタイ
9	株式会社京西	八王子市下恩方町	本社・工場	
10	小島織物株式会社	八王子市八木町	工場	

資料：八王子繊維工業団地協同組合『造成の軌跡』1985年

入居企業20社-2（1975年）

	会社名	本社	繊維工業団地	事業内容
11	個人（代表者：小林訓文）	八王子市下恩方町	本社・工場	
12	小宮織物合名会社	八王子市台町	工場	
13	有限会社沢井織物工場	八王子市高月町	工場	着尺、袴地
14	菅清織物株式会社	八王子市大和田町	工場	ネクタイ
15	有限会社大橋織物	八王子市下恩方町	本社・工場	
16	有限会社明日香	八王子市中野上町	工場	
17	堀江織物株式会社	八王子市大横町	工場	
18	有限会社丸寛	八王子市下恩方町	本社・工場	
19	大雄織物株式会社	八王子市下恩方町	本社・工場	
20	株式会社中山織物工場	八王子市本町	工場	

資料：八王子繊維工業団地協同組合『造成の軌跡』1985年

入居企業20社について

- 繊維工業団地に本社を移転したのは6社で、14工場が八王子市内に本社を持っている。
- 八王子市の調べ^(注3)によると、
 - ・着物地を中心に生産 7社
 - ・ネクタイ地を中心に生産 10社
 - ・マフラー 1社
 - ・メリヤス 1社
 - ・インテリア関連 1社
 - ・団地全体で織機80台、従業員200名弱。

(注3：八王子市『新八王子市史』通史編6 東京印書館 2019年)

入居企業20社について

羽田・吉兼（1977）^{（注4）}が八王子の工業団地の操業状況について調査を行った。

その調査では、1975年1月現在、

- 繊維団地の20工場の生産額は23億円に達し、八王子市の繊維衣服生産額の10%を占めていることが分かった。
- 20社すべてが従業員29名以下の小規模企業であると指摘している。

注4：羽田新・吉兼秀夫（1977）「首都圏都市における工業化の展開－八王子市の場合－」

『明治学院論叢第263号 社会学・社会福祉学研究49』明治学院大学文経学会

繊維工業団地造成後の問題点

- 共同事業施設の建設の見送り（再検討と他産地の実情調査）
 - 染色→濁水問題、廃水処理問題
 - 糊付→需要が低いため
- 組合員の組合費負担（二つの組合に加入）
- 参加企業の工場の団地内移転が遅延
- 参加企業の廃業・脱退
- 濁水問題
- 団地と隣接する工場から有害な悪臭による就労障害（3社）
- 団地内道路の八王子市への移管問題 など

資金返済について

融資先	完済日
公害防止事業団 (工場移転用地の造成資金)	1984年6月20日
東京都、中小企業振興事業団 (中小企業高度化・工場集団化資金)	1985年3月25日



組合、組合員の自主運営

入居企業（資料：八王子市ホームページより 2019年10月1日現在）

セフテック株式会社	株式会社Bee Worker	株式会社アルファー精工
西関東機材株式会社	有限会社みず木工房	オーエム通商株式会社
甲陽精密株式会社	丸池木工所	日本ビニールコード株式会社
ケイ・クラフト	有限会社ソービジィー	株式会社ティケイワイプロダクツ
日光紙業有限会社	PCS株式会社	株式会社励明園本舗
有限会社ナチュラル・ボックス	株式会社三和工務店	株式会社アステック
株式会社栄铸造所	富士プリント工業株式会社	篠原工業株式会社
株式会社ムラヤマ	有限会社朋友	あおき形成外科眼科クリニック
池田織物有限会社	内田長織物有限会社	有限会社青喜コンタクトレンズ販売店
株式会社川戸工務店	オリエント技研株式会社	異業種団地
ヤマト運輸株式会社 下恩方センター	有限会社諸岡塗装工業	

4.八王子繊維工業団地の経済的利益に関する考察

規模の経済性	<p>繊維団地に移転→立地制約（用地難・騒音などの公害）の解消ができた。 作業環境の改善ができ、ある程度生産性の向上ができた。</p> <p>共同施設見送り→当初の構想と違って、コスト低減や対外信用度の向上につながっていない。</p>
外部経済の利益	<p>外部不経済（団地からの騒音）が発生した。</p>
投資の経済性	<p>入居企業が個別投資より、用地、建物などを経済的に入手できた。 完済後は土地・建物を賃貸借または売買することができる。 繊維不況の中、織物から他産業に転業できた。中には不動産業に転業するケースが多い。</p>

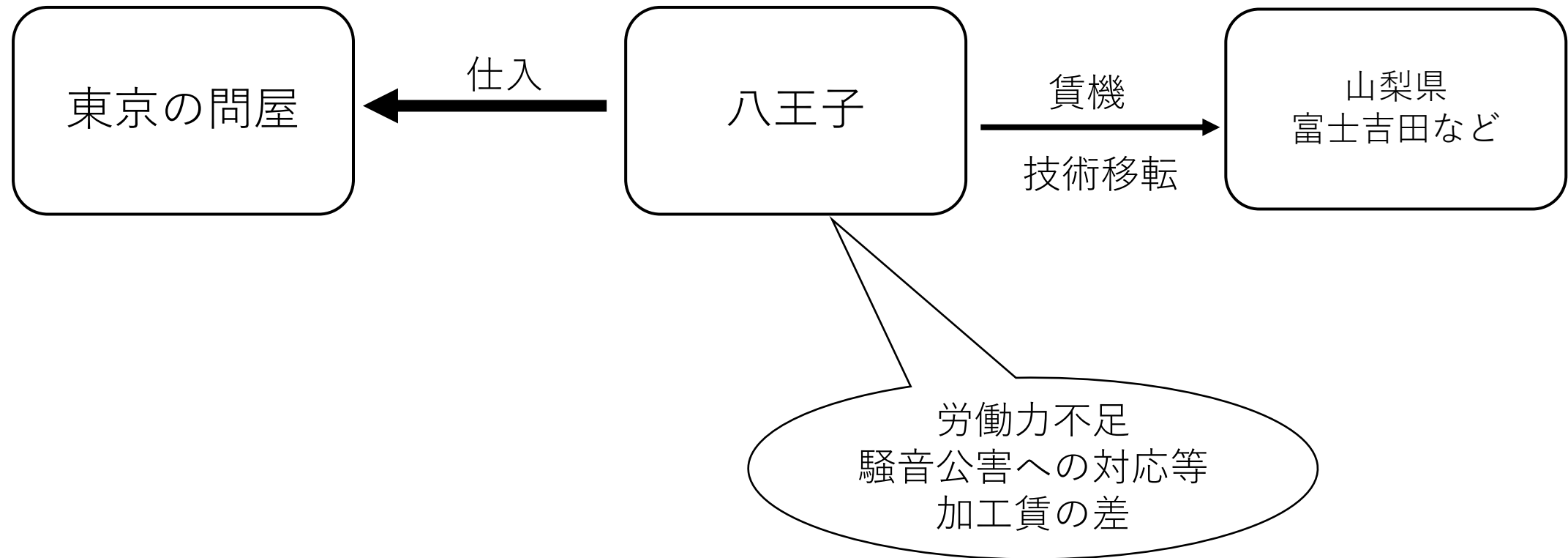
八王子織物産業の衰退

1960～1970年代社会的経済的背景

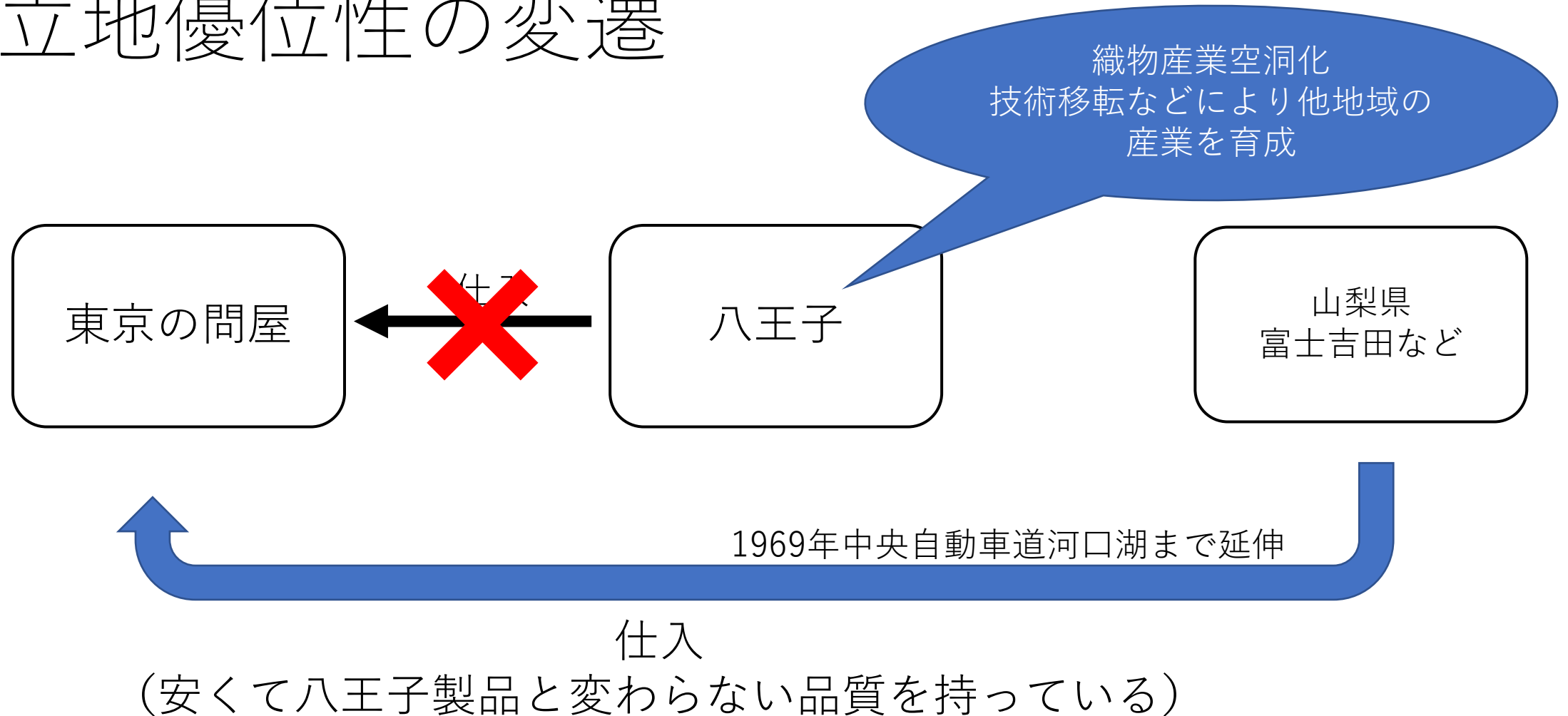
- 着物離れ
- 原料高製品安（生糸輸入一元化）
- 対米繊維製品輸出自主規制
- 石油危機

- 市内大手糸商、大手買継商の倒産
- 連鎖倒産、廃業
- 賃機依存

八王子の立地優位性



立地優位性の変遷



5.八王子繊維工業団地の機能と特質

- 繊維工業団地の機能：生産の場

市街地に散在していた機屋が直面する立地制約（用地難、騒音など）を解消できた。

- 繊維工業団地の特質：立地の優位性と立地による制約

消費地との距離が近い → 織物産業の発展

織物不況時 → 土地が高いため、賃貸業などに転業できる

→ 織物産業の衰退

同業種団地から異業種団地に変貌することは必然なことである。

6.まとめ

八王子繊維工業団地の事例研究から

- 繊維工業団地は市街地に散在していた機屋が直面する立地制約（用地難、騒音など）を解消することができた。しかし、当時八王子全体で織物業者が約600名もいたのに、団地入居者はわずか20社のみで、産業発展に大きく貢献したとはいえない。団地に移転しない理由として、経済的要因、現状満足、将来への不安、政治的立場などが挙げられる。
- 造成時の入居企業が投資の経済的利益の恩恵を受けている。
- 立地の優位性が産業発展にもつながるし、産業を衰退させる一面も持っている。繊維工業団地は地理的利便性を生かして、同業種団地から異業種の経済活動の拠点に変貌しつつある。将来、繊維工業団地の名が消える可能性もある。
- 八王子では繊維産業の空洞化が進んでいるが、技術移転などにより、他の地域の産業育成にある程度貢献した。

参考文献

- 王玲玲 (2020) 「八王子市における工業団地の形成と発展」 『経済学論纂』 第60巻第3・4合併号 中央大学経済学研究会
- 百瀬恵夫 (1978-1) 「工業団地の類型的研究」 『中小企業季報』 大阪経済大学中小企業経営研究所
- 百瀬恵夫 (1978-2) 「工業団地の経済的特性」 『政経論叢』 明治大学政治経済研究所
- 羽田新・吉兼秀夫 (1977) 「首都圏都市における工業化の展開－八王子市の場合－」 『明治学院論叢第263号 社会学・社会福祉学研究49』 明治学院大学文経学会
- 高城寛 (1971) 『郡内機業の生産構造とその変化』 大阪経済大学中小企業経営研究所
- 八王子織物工業組合 『八王子織物工業組合百年史』 2000年
- 八王子繊維工業団地協同組合 『造成の軌跡』 1985年
- 八王子市 『新八王子市史』 通史編6 東京印書館 2019年
- 八王子市ホームページ <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/>